

《2018年12月（通算268回）月例会報告》

\*\*\*\*\*

お宝映像上映会兼忘年会

—1970年ブラジル vs ペルーを「ティアスサナ」で—

\*\*\*\*\*

【日 時】2018年12月21日（金）18：00～21：50ごろ（中締め。最後は23：30ごろまで）

【会 場】ティアスサナTia Susana

【参加者（会員・メンバー）6名】

金子正彦、岸卓巨（JISS）、斎藤芳（桜丘高校）、茅野英一（帝京大学）、中塚義実（筑波大学附属高校）、  
守屋俊秀（世田谷サッカー協会）、吉原尊男

【参加者（未会員）5名】

守屋佐栄、岸卓巨妻子、国島栄市、藤井一朗（桐窓サッカー倶楽部）

<目 次>

- I. 趣旨と概要
- II. 当日の様子（ML投稿記事より）
- III. 参加者からのコメント（投稿順）



## I. 趣旨と概要

### 1. 月例会案内より (2018年11月19日配信「サロン通信：2018年12月号」より)

今年も忘年会の話題が出てくる季節になりました。サロン2002でももちろん企画しています。

「お宝映像上映会」との抱き合わせ忘年会は久しぶりです。会場は2012年の忘年会で使わせてもらった信濃町の「ティアスサナ」です。そのときの模様は以下のとおりです。

[https://www.salon2002.net/src/pdf/monthly\\_report/2012/2012-12.pdf](https://www.salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2012/2012-12.pdf)

このお店が12月で閉店します。最後の1週間はほとんど身内のパーティで埋め尽くされているので、「お客さん」が集まってわいわいできるのはサロンの月例会あたりがラストとなるでしょう。

年末の金曜日を、ペレのブラジル、ディディのペルーのクラシカルなゲームで楽しみましょう！

## 《2018年12月（通算268回）月例会＝忘年会兼お宝映像上映会》

【日 時】2018年12月21日（金）18：00～21：00（中締め。これ以降も居残り可能）

【会 場】ティアスサナTia Susana

新宿区信濃町8-11 坂田ビルB1 TEL/FAX 03-3226-8511

### 【概 要】

お宝映像は1970FIFAワールドカップ・メキシコ大会準々決勝「ブラジルvsペルー」。全盛期のペレとその仲間たちが織りなす“史上最強”のブラジルに2点をとったペルー代表。その監督は1958年優勝チームの英雄ディディです。クラシックな時代の南米サッカーを堪能しながらペルー料理を楽しもうというぜいたくな企画です。

とにかくこのお店自体が「お宝」の宝庫です。年内閉店の「ティアスサナ」を楽しめる最後の機会です。いませんか！

【参加申込】サロン2002のHPからお申し込みください。いったん12月10日で締め切ります。参加費は3,000～4,000円を想定しています。12月10日時点の人数で確定します。

### 【参考（お店のパンフレットより）】

70年代から銀座にオープンしていた店を1985年に一度閉店し、2007年に場所を信濃町に移して再オープン。「サッカー好きのオアシス」といわれていたのが一目でわかるほど、往年のスター選手の来店時の写真やサインが店の壁中に貼られ、それを店長の江頭さんが一つひとつ説明してくれる。南米のお酒とペルーの郷土料理を食べながら、Jリーグなどのライブ放映を観るもよし、自分たちの試合のビデオを持ちこんでみんなで盛り上がるのもこの店の楽しみ方だ。

## 2. 最終案内より (2018年12月19日配信)

「師走」ですね。いかがお過ごしでしょうか。

今年最後の月例会、「忘年会兼お宝映像上映会」が明後日に迫りました。現時点で参加申込は8名と、こじんまりした会になりそうですが、「お宝映像」と「ペルー料理」で盛り上がりそうです。お店には「10人前後」「飲食代は一人あたり3,500円。足りなくなったら追加する」と伝えてあります。

中塚は18時にはお店に着くよう動きます。

18：30に「お宝映像」キックオフします。“定刻主義”でいきますからね！

なお1月の月例会は1月18日（金）にしました。これは別便でご確認ください。

## II. 当日の様子

### 1. 月例会報告（簡略版）より（2018年12月23日配信）

CWCの合間にこれを打っています。けど明日からクーベルタン-嘉納ユースフォーラムがあるし、決勝戦は録画してあとでゆっくり楽しむことにします。

さて、昨日（もう一昨日ですかね）は「忘年会兼お宝映像上映会」でした。サッカーファン、南米ファンなら何時間でも過ごせるような「ティアスサナTia Susana」のひとつはとてもゆたかなものでした。

“お宝映像”は“お宝”にふさわしく、いろいろ語れるネタ満載でした。

まずは参加者と大まかな流れをご報告します。参加された方はぜひコメント（感想など）をお願いします。今回の月例会報告は、参加者からのコメントで構成したいと思います。

### 2. 時程と内容

18:00前後 ボチボチ集まってきたところで乾杯

18:20頃 「予習」してきた吉原氏より“お宝映像”「1970年準々決勝ブラジルvsペルー」の解説。吉原氏がサッカーを始めた高校生のころ「ダイヤモンドサッカー」で見た記憶があるという。会場はグアダラハラのアリスコ・スタジアム。標高は1,400mほどか。キックオフ時刻は12時。選手の影は足元にしかない。ブラジルのメンバーは豪華絢爛。背番号は1~11。登録番号制ではあったが、当初からの「ベストメンバー」なのだろう。ペルーの主将はエクトル・チュンピタス。来日したときティアスサナに来たそうだ。テオフィロ・クビジャスの名前もある。1978年にも出ている選手なら私もよく覚えている。試合が楽しみ。

18:30頃 上映開始。まずはペルー国家。続いてブラジル国歌。今だとFIFAの大会で国歌演奏は1分程度に縮められているが、この頃はフルバージョンでやってくれる。ブラジル国歌もなんだかゆっくり目の印象。時間がゆっくり流れていた時代か。ブラジル選手が全員（ペレも）直立不動だったのはおもしろかった。

18:40頃 キックオフ。

19:30頃 前半終了。ここでいったん映像を止めて、自己紹介・近況報告タイム。「一人持ち時間上限2分」のはずだったが、終わるわけがない。

20:10頃 後半開始。最後まで集中して見ていた組と、会話に夢中になっている組に分かれた監事。私は食い入るようにみていた。おもしろすぎる！

21:00頃 試合終了。しばらく試合の話題で盛り上がる。

21:50頃 中締め。そこでティアスサナのマスターから御礼のご挨拶とともに、同じ場所で、サッカー居酒屋ができるとのこと。後継店の店長（FC東京サポのお店をやっていた方）のご挨拶。そして集合写真。ここから先は三々五々。1970年の1次リーグ、ブラジルvsイングランドを見ながらうまいワインを楽しんだ。

23:30頃 終了・解散

文責：中塚義実

# 1970 FIFA World Cup Mexico™ Quarter-finals Brazil – Peru 4:2 (2:1)

Date 14 June 1970

Time 12:00

Venue / Stadium Guadalajara / Jalisco

Attendance 54233

Match Officials

Referee

Vital LORAUX (BEL)

Assistant Referee 1

Ferdinand MARSCHALL (AUT)

Assistant Referee 2

Gyula EMSBERGER (HUN)

Goals scored

RIVELINO (BRA) 11',

TOSTAO (BRA) 15',

Alberto GALLARDO (PER) 28',

TOSTAO (BRA) 52',

Teofilo CUBILLAS (PER) 70',

JAIRZINHO (BRA) 75'

\*\*\*\*\*

## Brazil

## Peru

Line-up

[1] FELIX (GK)

[2] BRITO

[3] WILSON PIAZZA

[4] CARLOS ALBERTO (C)

[5] CLODOALDO

[6] MARCO ANTONIO

[7] JAIRZINHO (-80')

[8] GERSON (-67')

[9] TOSTAO

[10] PELÉ (Edson Arantes do Nascimento)

[11] RIVELINO

Substitute(s)

[12] ADO

[13] ROBERTO (+80')

[14] BALDOCHI

[15] FONTANA

[16] EVERALDO

[17] JOEL CAMARGO

[18] PAULO CESAR (+67')

[19] EDU

[20] DARIO

[21] ZE MARIA

[22] LEO

Coach Mario ZAGALLO (BRA)

(FIFA 公式ホームページ)

Line-up

[1] Luis RUBINOS (GK)

[2] Eloy CAMPOS

[4] Hector CHUMPITAZ (C)

[5] Nicolas FUENTES

[6] Ramon MIFFLIN

[7] Roberto CHALLE

[8] Julio BAYLON (-54')

[9] Pedro LEON (-61')

[10] Teofilo CUBILLAS

[11] Alberto GALLARDO

[14] Jose FERNANDEZ

Substitute(s)

[3] Orlando DE LA TORRE

[12] Ruben CORREA

[13] Pedro GONZALES

[15] Javier GONZALES

[16] Felix SALINAS

[17] Luis CRUZADO

[18] Jose DEL CASTILLO

[19] Eladio REYES (+61')

[20] Hugo SOTIL (+54')

[21] Jesus GOYZUETA

[22] Osvaldo RAMIREZ

Coach DIDI (BRA)

<http://www.fifa.com/worldcup/archive/edition=32/results/matches/match=1768/report.html>

### Ⅲ. 参加者からのコメント（投稿順）

#### ◆岸卓巨

“お宝映像”はもちろんですが、今回の忘年会の会場である「ティアスサナTia Susana」自体が“お宝”であるように感じました。所狭しと飾られたサッカーグッズの数々、10年間1日も休まずにお店を開き続けているという店主のネットワークと人柄、美味しいペルー料理など、様々な面で今年で閉店となってしまうことが残念なお店です。「孤独のグルメ」（漫画版）で取り上げられるのも納得です。

しかし、恥ずかしながら、私は今回の忘年会が開催されるまで、このお店の存在を知らませんでした。サロン2002が前回忘年会をこのお店で開催した2012年は私はJICAボランティア（青年海外協力隊）としてケニアにいました。その後、私は帰国して今年の8月まで外苑前（日本スポーツ振興センター）で勤務していましたので、それほどお店から遠くありませんでしたが、「ティアスサナTia Susana」について知らなかったのは勉強不足でした。もっと早く知っていたら、職場の仲間と来たり、このお店を貸し切ってイベントを開催したり、様々な関わり方ができたのに。

ただし、嬉しいことに、来年2月からは新たなサッカーレストランとしてオープンするとのこと。今回の忘年会を通して次の店長とも繋がることができましたので、今後「ティアスサナTia Susana」跡地のお店で月例会や忘年会など開催できればと妄想しています。

お馴染みの「ルン」跡地（護国寺）の「景宜軒」のように、サロン2002と繋がり深いお店の歴史を辿っても話が尽きなくなりそうです。そんなことを考えた今回の忘年会でした。

#### ◆中塚義実

「サッカー史上、最強チームはどこか」との問いは、サッカー談義でよく出てくるテーマである。最近あまり聞かれなくなった（ような気がする）のは、サッカーのルールが徐々に変化し、選手の潜在能力は最大限に引き出されるようになり、新しい戦術の開発・導入もあって、サッカーが徐々に“別のゲーム”になりつつあるからだろうか。

それでも「サッカー史上最強チーム」を考えるのはおもしろい。そしてこのテーマで必ず候補に挙がってくるのが「1970年のブラジル」である。

決勝のイタリア戦や1次リーグのイングランド戦はみたことがあった（この日も、ペルー戦後はイングランド戦をみた）。しかしペルーとの南米対決は、ヨーロッパ勢との試合とは明らかに異なる。ゆったりとしたリズムでボールを回す。両チームとも簡単にボールを奪われない。守備が組織されておらず、前線からボールを奪いに来ないのは確かだが、ふらふらと取りに行くとも簡単にかわされてしまう危険性（期待感）が両チームともあるように感じた。単純に、おもしろい！

そしてブラジルにはペレがいる。ジャイルジーニョは若くてはつらつとしている。トスタンやリベリーノもいて、ジェルソンが効いている。「各チームの10番を集めてチームになるのか」と批判されていたらしいが、完全にチームとして機能している。半世紀近く前のゲームなので、ボールはもっとごわごわでピッチも整っていない。そんな中での完璧なボールコントロールは“遊び”の中で育まれたホンマモンを感じる。いまのサッカー界でも「最強」と言えるのではないだろうか。

このゲームを、ペルー料理「ティアスサナ」で楽しめたのは幸せだった。トヨタカップなどで来日した南米のチームが必ず訪れたという伝説の名店である。ここにいるだけで南米にいる気分になる。

この日は12月21日。あと10日もすれば閉店である。

ゆたかなひとときを楽しむことができた。ありがとう、ティアスサナ！

#### ◆吉原尊男

私がサッカーを始めた頃は、サッカーに関する情報源といえば、サッカーマガジン（月刊、以下SM）と三菱ダイヤモンドサッカー（毎週1回、以下DS）しかなかった時代だった。サッカーのW杯という大会がメキシコで開催されることはSMから情報を得ていたが、DSの1970メキシコW杯の放送は大会

から少し遅れての放送であり、おまけに前後半を2週で放送するので全試合終了するまでかなり時間がかかった。

もちろんまだ家庭用ビデオなどないから、SMの放送欄からメンバーや経過など予習し、得点時間間際になると得点に至るまでのくずしから絶対に見落とすまいと画面を凝視し、時にはTVの前に正座して(サッカーの修行僧みたいだ。)集中して見入ったものである。そんな時代だった。

このブラジルvsペルー戦、覚えているのは、トスタンが得点したこと、そして両チームともGKの拙守から得点に至ったことくらいだった。

今回見直してみたら、やはりこの大会のブラジルはコンディションが良く、また稀有のタレント揃いで、優勝するに値するチームだったと実感した。ペレを中心とした変幻自在の攻撃ばかり目立ったが、2人のCBと守備的MF(あえてボランチと言いません。)の守備は何気なく堅固だった。そんなブラジルに対して頑なに中央突破で活路を見いだそうとするペルー、もっと外から攻めればいいのに・・・

感心したのは、南米のチーム同士、監督はともにブラジル人で元チームメートのせいか、お互いに相手の良さをつぶそうとするのではなく、悪質な反則もせずにお互いの良さを出すべく自分たちの攻撃を貫いていたことである。この頃は、ある意味「古き良きサッカーの最後の時代」だったのかもしれない。

そして、古今東西サッカーのベストプレイヤーは、やっぱりペレしかいない、とあらためて実感したそんな映写会だった。

(おまけ)

個人的にはこの大会のゲームベスト3は以下のとおりである。

☆第3位 準々決勝 西ドイツ3(延長) - 2イングランド

ミュラーの決勝ゴール、バンクスが出場していれば・・・

☆第2位 準決勝 イタリア4(延長) - 3西ドイツ

歴史に残る世紀の死闘、リベラの決勝ゴールを見送る脱臼した右肩をテーピング固定したベッケンバウアー

☆第1位 1次リーグ ブラジル1 - 0イングランド

何とんでもバンクスが世紀のファインセーブ、ブラジルは大会でこのゲームだけが1得点の辛勝

※ペルー戦の後で、イングランド戦も流したとは・・・残念、見たかった!

以上